



DPFメンテナンス＆クリーニングシステム 施工マニュアル



DPFプローブ
(専用ノズル付き) #7945



DPFプローブロング
#20630



DPFタンクスプレーガン
#29028



LMT-IH01 DPF
いすゞ日野ノズル



DPFクリーナー
#20913 (1L)



DPFパージ
#20914 (500ml)

LIQUI MOLY DPFメンテナンス＆クリーニングシステムをご利用いただきありがとうございます。この製品は、下記のような特徴を持っています。

注1)

- DPFを車体から外さずクリーニングし、DPFの寿命を飛躍的に伸ばします。
- 大がかりな設備投資の必要が無く、大幅なコストダウンが可能。
- 尿素SCRシステム装着車を含む全てのDPF装着車に使用可能。
- クリーナーとパージの2種類の水溶性の液体を使用。危険物ではありません。
- クリーニングにおいて、通常の排気ガス以上の有害物質を排出させません。
- ヨーロッパ各国、アメリカ、カナダ、アジア各国で長年の実績！

注1) センサー部から直接噴射可能な車種に限りです。



**アメリカで「ベストプロダクト賞」を受賞！
ディーゼル先進国、「ドイツ」から、信頼と安心をお届けします。**

LIQUI MOLY社は添加剤・ケミカル・グリス・潤滑スプレー・オイルなど、4000点以上の製品を自社開発・製造する、ドイツNo.1の専門メーカー。全てドイツ国内自社工場で生産し、120ヵ国以上へ輸出しています。

LIQUI MOLY DPFメンテナンス＆クリーニングキットは、すすを完全燃焼させ、DPFの性能を維持します。すすの蓄積については、運転スタイルや、運転条件によって大きな差がありますので、どのくらいの期間や距離で行うべきか、一概にお答えすることができません。すすが堆積するのを防ぎ、常に快適な状態を保つ為、定期的に使用することをお勧めします。

■ 作業はとても簡単！ (作業自体は10分程度/完全終了まで約1時間)

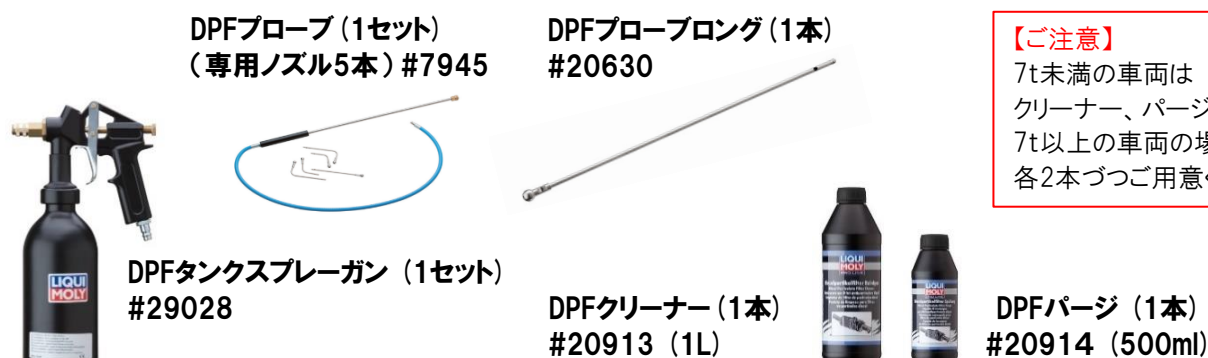
DPFのプレッシャーセンサー(または温度センサー)を外し、専用スプレーガンでDPFに直接噴射します。1液めの「クリーナー」でフィルターに焼き付いて燃え残った「すす」を溶かし、15分間放置後、2液めの「パージ」で中和させながら、溶かした「すす」を浮かして、燃える状態にします。プレッシャーセンサーを元に戻し、強制燃焼をかけたら終了です。

「LIQUI MOLY メンテナンス&クリーニングシステム」の施工は、YouTube(日本語の解説付)でご覧になれます。



■ ご用意いただくもの

1) DPFクリーニングキット



2) エアコンプレッサー/エアツール用ホース

エア圧が6-8barの出力に調整できる物をご用意ください。エア圧が高い場合には、レギュレーター(変圧器)をご利用ください。



3) DPF本体に装着されているプレッシャーセンサー、または温度センサーを外すための工具及びケミカル

固着したセンサーを外すために、溶解・浸透スプレー等のケミカル類のご使用をお勧めします。



4) 車両サービスマニュアル、スキャンツール(自動車故障診断機)

強制燃焼をかける場合に必要となります。

■ 作業工程の流れ

① DPFに装着されているプレッシャーセンサーまたは温度センサーを外す

通常センサーはDPFの前側と後ろ側の2か所あります。センサーを取り外した穴から、ノズルを挿入して、直接DPFにスプレーするため、必ずDPFの前側のセンサー（触媒とDPFの間にあるセンサー）を取り外してください。

（図1参照） 図1は一例で、車種により違います。

【ご注意】センサーは高熱、錆、樹脂化したすすやオイルなどにより固着している場合が多くみられます。溶解・浸透スプレーなどを使ってねじ山や本体を破壊しないように取り外してください。



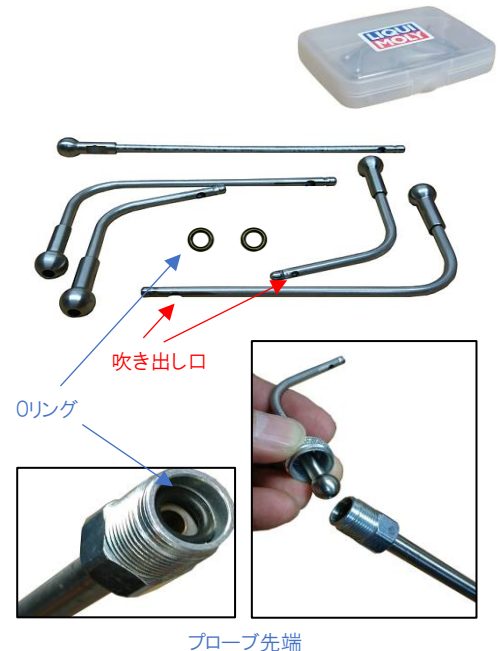
図1



② 最適なノズルを選んでプローブの先端に装着する

DPFに装着されているセンサーの場所は車両により、車体のフレームなどに干渉して、まっすぐなノズルが入らない場合もあります。そのため、DPFプローブセットには5種類のノズルが付属されています。ノズルを直接DPFの穴に差し込み、ノズル先端の吹き出し口が、DPF方向に向いた状態で差し込める、一番適当と思われるものを選択してください。（上記：図1参照） プローブのノズル装着部の先端のねじを外し、選択したノズルを装着し、しっかりねじを締めてください。

【ご注意】プローブの先端とノズルの間にあるOリング（黒い輪ゴム）が無かったり、切れたりしていると、液漏れの原因になります。装着前に確かめ、交換が必要な場合には、付属のOリングをご使用ください。



プローブ先端

③ DPFクリーナーをDPFタンクスプレーガンに入れ、DPFプローブとエアホースを接続する

DPFタンクスプレーガンの、「ガン」部分がねじ式の蓋の役目をしているので、これを緩めて「ガン」を外し、DPFクリーナー全量(1ℓ)をタンクに入れ、スプレーガンをタンクにしっかりと装着します。その後、DPFプローブのホースを装着し、最後にエアホースを接続してください。

【ご注意】エア圧は必ず6-8barの圧力bの状態で装着、使用してください。圧力が低すぎると、DPFの奥まで液剤が浸透しない場合があります。また、圧力が高すぎると吹き戻しがあるばかりか、機材の破損にもつながります。

DPFタンクスプレーガン「ガン」を外してクリーナーを入れる



DPFタンクスプレーガン「ガン」を装着し、DPFプローブのホースを装着する。



エアホースを装着する。



④ DPFクリーナーDPFに直接吹き付ける

DPFプローブの先端に装着したノズルを、センサーを取り外した穴に差し込み、DPFに直接吹き付けます。

【ご注意】必ず排気側(DPF側)にノズルの吹き出し口が向いていることを確認してください。(上記:図1参照)
吹き付けは3秒~5秒間隔で、吹き付け、休み、吹き付けを繰り返し、タンク内の全量が無くなるまで行います。その際、DPF全体に吹きかかるように、ノズルを前後左右に動かしながら行ってください。

【ご注意】吹き付けを連続して行わないでください。連続して行くと吹き返して、液剤が外に漏れるばかりか、DPFの奥まで液剤が届かず、十分な効果が期待できません。
※7t以上の車両の場合は、この作業を2回行ってください。
(2本/2リットルを使用します。)

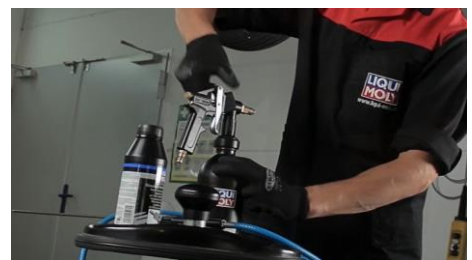


【ご注意】クリーナーを吹き付けた後、約15分間、放置してください。

⑤ DPFタンクスプレーガンからエアホースを外し、タンク内の圧力を抜く

クリーナー全量を吹き付け終わったら、センサー穴からノズルを抜き、DPFタンクスプレーガンからエアホースとDPFプローブをはずします。その際、空気の圧力がかかっていますので取り外しにご注意ください。その後、DPFタンクスプレーガンを床面に向けた状態で、レバーを引いてタンク内で加圧された空気を完全に抜いてください。抜き終わりましたら、DPFスプレーガンタンクを外し、蓋を開けます。

【ご注意】エアホースを装着したまま、または、DPFタンクスプレーガンの内部で加圧されたエアを抜かずにスプレーガンを外すと非常に危険です。



⑥ DPF パージをDPFタンクスプレーガンに入れ、 DPFプローブとエアホースを接続する

③で行った作業同様に、DPFタンクにDPF パージを全量入れ、スプレーガンタンクにしっかりと装着します。その後、DPFプローブのホースを装着し、最後にエアホースを接続してください。（作業工程、注意事項は③を参照ください。）

【ご注意】クリーナー使用後にパージを入れる場合、特に洗浄する必要はありません。そのままご使用ください。

※7t以上の車両の場合、2本(500mlx2本=1ℓ)をDPFタンクに入れてください。

⑦ DPF パージをDPFに直接に吹き付ける

クリーナーを吹き付けてから15分が経過したのち、④で行った作業同様に、DPFプローブの先端に装着したノズルを、センサーを取り外した穴に差し込み、DPFに直接、全量吹き付けます。（作業工程、注意事項は④を参照ください。）

⑧ 取り外したセンサーを元に戻す

①で取り外したセンサーをもとの状態に装着してください。

⑨ 強制燃焼を実施する。

エンジンを始動し、暖機運転後、車両のマニュアルに従って強制燃焼を行ってください。

【ご注意】強制燃焼を行うと真っ白な煙がでますが、これは水蒸気によるものです。通常の排気ガス以上の汚染物質は排気されませんが、近隣にお住まいの方などに、事前に了解を得て行うか、安全な場所に移動して行ってください。



■ DPFクリーニングキットの清掃・保管について

作業後は、タンク内のエア圧を完全に抜いた状態で、ほこりなどがつかないように保管してください。クリーナー及びパージは危険物ではありませんので、キット類を洗浄する必要はありません。

【ご注意】DPFプローブに付属されているノズルは細く作られているため、ちょっとした力を加えると折れたり曲がったりする可能性があります。作業後は必ずプローブから外し、専用のプラスチックケースに入れて保管してください。